

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム 宮ノ里 樹木通り

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	株式会社 サザンクロス		
事業所名	グループホーム 宮ノ里 樹木通り		
所在地	岩手県花巻市西宮野第13地割121-2		
自己評価作成日	令和5年12月日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『一人一人の利用者に、できることをやっていただく』という理念をもとに個別に役割を持っていただき、継続することで共同生活を実感していただいているように思う。この春からは、感染予防を徹底しながら、面会の規制を緩和し、ご家族、知人との交流も増えてきている。傾聴ボランティアの方の訪問も再開している。お花見、はなまき祭りやかかし祭り見学、焼き芋、クリスマス会などを行い、季節を感じ、楽しめるように企画している。健康管理の面では、担当医に情報提供書を作成、受診時に持参することで医師からも健康観察の視点の助言や治療方針についてなどくわしく説明をいただけるようになっている。毎月、個別に作成し送付しているお便りは、ご家族が楽しみにしていると聞く。職員は、写真撮影やレイアウトなど創意工夫を凝らし、ホームでの様子を伝えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道4号線に近い交通アクセスに便利な場所にある平屋建ての2ユニットである。「一人一人の利用者に、できることをやっていただく」という事業所理念のもと、「十人十色」「千差万別」の考え方で、利用者の個性を大切に介護に取り組んでいる。事業所の年間目標や職員一人一人の目標を定め、介護の実践に努めている。毎月、担当の職員から家族に利用者の様子や状況が分かる写真やコメントを書いたお便りを送付し、家族から好評である。看護師1名を配置して健康状況を確認しているほか、看取りに関する支援体制も着実に整え、職員に対するケアや研修も看護師を交えながら進められている。月1回訪問する訪問診療医と毎週訪問する看護ステーションの看護師、訪問歯科との連携も取れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 樹木通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有をはかり、実践につなげる努力はおこなっているが、その成果には、まだまだ課題がある。	「一人一人の利用者に、できることをやっていた」とする理念は、創設者の前社長と部長で話し合って作ったものである。事業所ではこの理念に基づき、利用者の個性を大切に介護の実践に取り組んでいる。また毎年度目標を決め、職員はそれぞれ個人目標を立て、年度末に振り返りを行いながら次に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などは、まだ規制があり、日常的な交流は難しい。が、傾聴ボランティアの方に来所いただいたり、敬老会には、ボランティアの方に踊りを披露していただき、一緒に踊るなどして交流している。	町内会に加入し、回覧板も回って来ている。近隣の方々から野菜のお裾分けや、散歩の際には挨拶もしている。傾聴ボランティアが毎月来所し交流を深めたり、敬老会では踊りのボランティアが来所し、利用者も一緒に踊るなどして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	周辺地域の方から、認知症についての質問などを受けることがあり、事業所が認知されていることを実感することはあるが、地域に貢献できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催したときは、意見交換が活発に行われ、意見やサービス向上に活かすことに結びついているが、文書を届けるかたちで行うとほとんど質問、意見をいただくことができない。	今年から参集開催とし、利用者も様子を見ながら参加している。メンバーは行政や地域の主だった方々で構成され、入居者の状況、行事、職員の研修・勉強会、避難訓練などの報告を行っている。委員からの質問や提案をサービス向上や防災対策に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が行っているが、その内容などを職員に知ってもらうようにしていきたい。花巻市の担当者からは、入居状況の確認、入居相談、求人についてなどの相談をいただくことがある。	運営推進会議に市の担当者、地域包括支援センターの職員も出席しており、様々な行政情報や助言を得ている。要介護認定申請も指導を得ながら円滑に進めている。同センターからは、入居に関する問い合わせもいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、運営推進会議の席で報告することとして、今年度は、確認されていない。虐待の芽チェックや勉強会を行い、身体拘束をしないケアの意識は身につけてきていると感じる。	身体拘束に関する指針を作成し、研修も所内の学習係が計画し年2回実施することとなっている。転倒防止予防の人感センサーを1号館は2名、2号館は5名に、家族の了承を得て設置している。スピーチロックがあった場合には、管理者が注意喚起を促し、改善を図っている。玄関は防犯の為、夜間のみ施錠している。	身体拘束に関して、改善事例が生じた場合には、職員共通の課題と位置づけて支援に努めることを期待します。

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 樹木通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	6に記述しているように虐待防止の意識は、身につけていると思うが、威圧的な態度や命令口調を見聞きしたことのある職員もあり、虐待の芽は存在していると感じているので、お互いに気を付けていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、ていねいな説明を心掛け、締結後も不安、疑問点などがないかを尋ねるようにしている。改訂があるときは、文書を送付、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別に機会は設けていないが、ご家族に連絡事項があるときの電話などに相談を受けたり、要望を伝えられたりすることがある。職員間で共有し、解決すべきことに対応している。	家族の意見や要望は、通院同行、面会、運営推進会議で来所したときや、電話での連絡時、毎月のお便り発送の際にも伺っている。居室担当者、利用者の日々の生活の様子を写真を添えて毎月家族に届けている。利用者が不穏の時など、事業所が利用者への対応に困ったときには、家族に相談して解決策を考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、相談を受ける体制は出来ているが、毎月開催しているスタッフ会議にその機会を設けている。	毎月のスタッフ会議や日々の業務の中で職員から意見や提案を聞いている。管理者は職員との個人面談を毎年定期に実施し、人間関係や業務に関して話し合っている。職員の提案でeラーニングのためにWiFiを導入し、利用者の居室にはエアコンを設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月に1、2度程度、事業所を訪問し、職員と話す機会がある。管理者とは、日頃から相談できる環境があるが、今年度は、個別面談も行った。また、資格取得制度があり、毎年、その制度を利用して資格を取得する職員があり、今年度も数名利用している。		

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 樹木通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は行っているが、外部の研修には、あまり参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響がまだあり、機会が限られている。チラシなどで告知するが、希望者は、ほとんどない。職員不足、開催時間、場所など参加しにくいことも一因と思う。また、参加を希望しても、要件があり、参加できないこともある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、調査時、ケアマネ、利用していた介護施設からの情報などを事前に収集しているが、ご本人が安心できる関係性を築くには、時間を要すると感じている。発言ばかりではなく、しぐさや表情から発想することも大事なのでむずかしい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み、契約時には、何ようようしているが、入居されてからの関係づくりに課題がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報が少ない方もあり、困難な場合もある。が、ご家族と連絡をとりながら、対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意思疎通の難しい方や介助量の多い方には、特に介護される一方の立場になりやすいので、カンファレンスや職員間での話し合いが必要である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をご家族に報告し、相談も行っている。が、コロナ禍の面会制限もあり、関係性が希薄になっているご家族もある。また、ご家族の高齢化もあり、連絡がとりにくいご家族も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者チェックを記入していただき、感染予防を行い、面会制限を緩和している。短時間ではあるが、ご家族、親戚、お知り合いの方との面会が可能になっている。懐かしい方との面会ができた方もある。	面会制限を緩和したことで短時間の面会が可能になり、家族が利用者の友達を連れて来るなど、懐かしい方との面会もできるようになっている。家族が受診帰りに住んでいた家の周辺を回ったり、お墓参りに連れて行って来てたり、行きつけの理容院に同行してくれるなど、関係が途切れないように支援している。毎月来所している理容師やマッサージ師も馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自身で関係を作っていける方もあるが、入居者間の橋渡しを行うよう努めている。また、共同作業を行うなど共同で生活を送っていることを実感していただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了してしばらくの間は、支援が続くこともあり、対応できていると感じる。数年経ってからも声をかけていただき、思い出話などができた時はうれしく思う。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で話されたことや、言動から把握に努めている。把握の難しい方の本人本位の検討は出来ていないところがある。	意思疎通の出来る方は1号館で3名、2号館で2名いる。難しい方には様子をみながら「～しましょうか」と尋ね、拒否がない時には嫌ではないかなと理解している。一人一人の利用者に応じて、手探りで思いや意向を把握し、個別記録に記載して職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めているが、情報が少ない方も多い。サービス利用が全くなく、入居を希望される方もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に記載している内容を確認するようにしている。行った日課ばかりではなく、発した言葉や表情なども記載するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、居室担当者が行うことが多く、職員全体で話し合う機会が少ない。ご家族からの要望、かかりつけ医からの助言などを反映させている。	計画作成担当者が居室担当者や他の職員の意見に加え、医師の意見や看護師の助言も加味して作成している。作成したプランは職員に回覧して共有している。新規の計画は1ヵ月後、その後3ヵ月後、6ヵ月後に見直している。家族には基本的に面会時を利用して了解を得ている。	計画作成に当たっては、居室担当者だけではなく、他の職員も関わることによりスキルアップにも繋がることから、会議の場を活用して、「チームで作る介護計画」を実践することを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中には、気づきや工夫も記入されているが、職員間での共有、実践する話し合いの機会が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は念頭においているが、たとえば、社会資源などを知る機会もなく、検討する機会もほとんどない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	28同様、ほとんど出来ていない。近隣の方が施設駐車場にいる入居者を発見、報告して下さったことがあり、地域の方の見守りに感謝した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、これまでも情報提供してきたが、今年度は、情報提供書の様式を統一し、文書で提供することで、適切な治療を受けることに結び付いている。	おおよその利用者は入居前のかかりつけ医を受診している。受診は家族同行を原則としているが、家族の都合で職員が同行する場合もある。受診の際には、情報提供書を持参し、適切な治療を受けられるようにしている。月1回の訪問診療で医師が来所し、訪問看護師も毎週1回来所し医療との良好な関係が築かれている。歯科及び皮膚科も訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の健康状態などの気づきなどを看護師に相談している。施設看護師は、定期的に感染予防の勉強会を行い感染対策の徹底をはかっている。また、専門性を生かし、介護職員への助言、指導を行っている。花巻病院訪問看護ステーションとの24時間連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入居者の状況を書面で報告している。病院の担当相談員や担当看護師からは、経過報告、退院時には、カンファレンスを行い、退院後の生活が支障なくおくれるようにしている。相談員の方とは、入院のケースばかりではなく、相談できる関係性を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、「医療体制に関する指針」という書面で説明しているが、重度化、終末期と医師が判断したときには、ホームでの看取りを希望する場合、ご家族、医師と話し合う場を早期に持ち、支援に取り組んでいる。ご家族の揺らぐ気持ちを大切に支援していきたい。	入居時に「医療体制に関する指針」に沿って看取りについて説明している。一昨年から現在まで4人を看取っている。医療行為が必要な場合には、医療機関への入院を勧めている。ユニットに看護師が1人おり、職員に看取りに関するアドバイスを行っているほか、これまでの看取り事例を職員に提供し理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「救急シート」を入居者全員分を備えている。応急手当や訓練は経験していない職員もいるので、研修の必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や水害などの被害が予想される場合は、関連施設からの協力体制を整えていたが、職員不足から難しくなっている。	年2回の避難訓練を実施している。1回は水害訓練、他の1回は火災訓練とし、昨年は薄暮時に夜間想定の実施をして、その様子を利用者に見学してもらっている。ハザードマップ上で水害区域に指定されていないが、第2避難場所として、同系列会社の紫波町のデイサービスを検討している。また緊急時に備えて近隣2名の方に協力をお願いし、水、食料などは4、5日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉使いをしないことを自覚していても、不意に発した言葉が不適切と思われることがある。職員間で指摘できれば良いのだが。	「利用者にごできることをやっていただく」という理念に基づき、一人一人の人格を尊重したケアの実践に努め、誇りを損ねるような言葉遣いをしないように配慮した声掛けや対応に努めている。車椅子対応のトイレは、アコーデオンカーテンで間仕切りし、プライバシーを守っている。不適切なことばが聞かれた時には、管理者と副管理者が口頭で注意している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 樹木通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りや、急かしたり、話の途中で要約して同意を求めたり、しないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここ数年の全体目標になったこともあり、一人一人のペースを大切にしよう努めている。が、時々、職員のペースで進めている場面を目にすることがある。その職員には、都度、声をかけるが、改善されていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容は、声掛け、介助で行っている。毎月、訪問整容をお願いし、希望者は、散髪、顔そりをお願いしている。洋服を選ぶことが出来なくなっている方も多く、職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用したメニューや行事食などを検討して提供している。希望を伺い、メニューに反映している。食事の準備は難しい方が多いが、後片付けをしていただいている。安心して食事を楽しんでいただけるよう、全職員が定期的に腸内細菌検査を受けている。	献立は管理者が立て、利用者の希望を聞いて提供している。職員の手作りの味が好評である。行事食や誕生会には利用者の希望に応え、お刺身を提供して喜ばれている。2か月に1回お弁当の日を設けて喜ばれている。利用者は下膳や片付け等、出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの助言のほか、食事形態など、食べやすいよう工夫している。水分量は、記録し、少ない方へは声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。歯科医から歯の汚れを指摘された方は磨き方を介助し、今では自分できれいにみがけるようになった。歯科医師会の協力で無料歯科検診を行い、ケアの方法について助言をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄介助を行い、習慣は把握しているが、自立に向けた支援は出来ていない。	排泄表により、個々の排泄パターンを把握し、入居者の状況に合わせてトイレでの排泄支援に努めている。布パンツ使用は両館共に2名で、リハビリパンツ、パットの併用などは個々の状態に合わせている。ポータブルトイレは、歩行に不安がある利用者1名が夜間のみ使用している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 樹木通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一般的な便秘の原因や影響は理解し、運動や水分摂取に注意している。便秘薬が必要な方には排泄のチェック表をもとに服薬のルールを決め記録し、検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	入浴の希望やタイミングは、体調や気分を考慮している。同性介助を希望している方もあり、出来る限り、希望に沿ったかたちになっている。入浴に拒否がある方に気分良く入っていただきたい。	週2回午後入浴とし、入浴を嫌がる利用者には、無理強いをせず、声掛けを工夫をしたり体調に合わせて柔軟に対応している。1号館、2号館それぞれ1名ずつの同性介助を希望する方に配慮している。入浴は、職員と1対1でリラックスできる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の室温や、適切な寝具などに配慮している。日課はあるが、休息などは、本人の希望を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録には、処方された薬の効能を書く欄があり、副作用など注意する内容も記述することになっているが、全員が把握できてはいないと思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の特性や思いを生かした役割を持っていただくようにしている。嗜好品に関しては、健康上の理由から提供できない場合もあるが、行事などには、ノンアルコールビールを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設からの提案ではあるが、外出の機会を持つようにしている。個別の希望にそった外出までは難しい状況である。ご家族と外出されることはある。	コロナ禍で外出支援が十分とはいえないが、花見シーズンには志戸平温泉、秋は紫波町の案山子祭りなど、ドライブをして季節の風景を楽しんでいる。天気の良い日には、事業所周辺を職員と一緒に散歩している。今後は焼き芋会を開くなど、戸外に出る機会を増やせるようにと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理や紛失の懸念などから、お金の持ち込みは、原則、お断りしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 樹木通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけられるよう支援している。手紙のやりとりも支援できるが、現在は希望者がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除など基本的なことは行っている。室温も温度計で確認しながら、本人にも確認している。季節を感じる装飾を作成して飾るなどしている。	共用のスペースは白とクリーム系の色を基調とした、明るく落ち着いた雰囲気である。ソファ、テーブル、椅子のほか、大型テレビが設置されている。壁面には利用者と職員で作った作品が飾り付けられ、みずきだんごなど季節を感じるものが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいる姿をよく目にする。ひとりになりたい時は、自室へ行っているようだ。消防署の指導でソファを置けなくなった場所が居心地の良い場所だったので残念だ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しく購入したものばかりではなく、使い慣れたものや自身が作った手芸品の持ち込みを勧めて居る。本人が強く希望しているものをご家族にお願いするケースもある。思い出の写真や家族の写真が身近にあると落ち着かれる方も多い。	居室は2号館ではベッド、カーテン、エアコン、1号館ではそれにクローゼットが追加されて備え付けられている。テレビ、衣装ケース、家族の写真などが飾り付けられ、自分のペースにあった生活ができるよう支援している。それぞれの居室には、1号館では花の名札が、2号館は樹木の名札がつけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「わかること」に関しては、トイレの場所などを掲示している。居室には名前をつけるなどしているが、探している様子を目にしたときは、声掛けするようにしている。		